

特集

手術部の紹介



診療部長、手術部長、外科
青木 秀樹

日本外科学会 外科指導医・外科専門医
日本消化器外科学会
消化器外科指導医・消化器外科専門医
ICD 制度協議会
インфекションコントロールドクター
日本肝胆膵外科学会 肝胆膵外科高度技能指導医
日本がん治療認定医機構 暫定教育医
Editorial board member of World Journal
of Gastrointestinal Surgery
医学博士、岡山大学医学部 臨床教授

1. 手術室の運用方針

予定した手術が安全に遂行できる事を心掛けております。がん診療拠点病院として悪性腫瘍の専門的手術を行っております。

また山口県東部から広島県西部に至る医療圏の患者様を対象とした3次救急の受け皿として、可能な限り多くの外傷や緊急症例にも対応する事を目標としております。

2. 手術室の概要

手術室は10部屋で全室HEPAフィルター※1を設置しておりますが、バイオクリーンルーム※2は3部屋でルーム1・2はクラス100※3、ルーム3はクラス1000となっており、ルーム4以下はクラス10000となっております。なお、ルーム9は陰圧室※4となっており、感染症の手術を行う事が可能で、COVID流行時には活躍致しました。

ルーム1は2013年の移転以来他に先駆けてハイブリット手術室※5を設置し、大動脈ステント留置術等高度な心臓血管外科手術に対応して参りました。



- ※1：超高性能フィルター ※2：空気中の塵やごみ、細菌を取り除く空調設備を備えた部屋
- ※3：空気清浄度。空気中の微粒子がどの程度少ないか。良い順に100、1000、10000
- ※4：部屋の気圧を周囲より低く設定することで、空気中に存在するウイルスや細菌が部屋の外に漏れ出しにくくするために設計された特別な部屋
- ※5：血管撮影装置を手術室内に設置することで、外科的な直達手術と血管内治療を複合的に行える手術室

各部屋には窓があり、外の風景を見る事も可能ですし、逆に外から手術をしている部屋を把握する事も可能です。

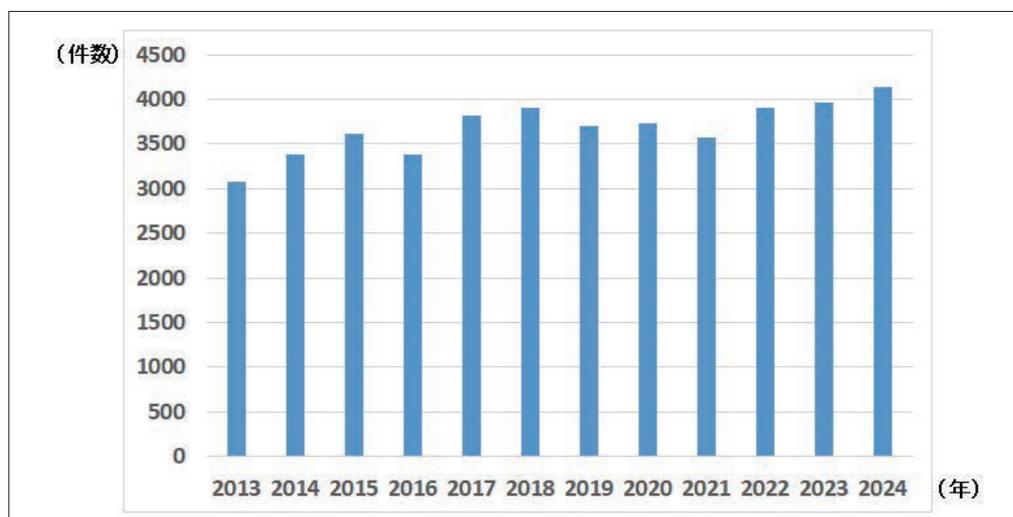
またロボット手術にも積極的に取り組んでおり、2024年には2世代目のDa Vinci Xiとなり、泌尿器科・外科・胸部外科で手術を行っております。



最近は危機的出血に対するシミュレーションも各科で施行しており、今年ではDa Vinciでのロボット手術の際の緊急開腹を想定したシミュレーションを施行しました。

手術件数はコロナで一時的に減少したもののその後増加しており、2024年は初めて4,000件を超えて4,143件となり、そのうち全身麻酔は2,952件となっております。4,000件は当院の2013年移転以来の目標であり、10年掛けて漸く達成出来ました。各科の移動等による増減はあるものの10年で1,000件増加しております。今後はこれを維持したいと思っております。

麻酔科は常勤6名、時短1名および外部支援ですが、2025年5月から常勤が1名減となり、件数への影響が危惧されます。なお、看護師は2025年4月より師長・副師長を含めて23名から28名に増員となり日々の業務を行っております。



3. 手術室の役割

地域の医療を支えるための高度な手術を提供する事を役割と考えております。また技術面だけではなく、手術を受ける患者さんの精神的な支えとなる事も大きな目標としております。

当院で手術を受けて良かったと思っ頂ける医療を提供する事が手術室の役割と思っております。



今月号表紙は、ハイブリッド手術室と手術部スタッフです。